

平成29年4月

東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校
校長 板垣啓四郎様

東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校
学校評価委員会委員長 藪野 通夫

平成28年度 「学校関係者評価」について

東京農業大学第三高等学校・同附属中学校（以下、学校という）から提示された「自己評価」等の関係書類の説明・報告を受け、学校評価委員会として、学校関係者評価を実施しました。委員会としての意見をまとめ、以下のように報告・提言いたします。

1 農大三高・三中の「学校改革」について

平成28年度は、平成27年度に東京農業大学第三高等学校・同附属中学校内に設置された「改革改善委員会」から提出された「答申」に基づき設置された新コース制のもとで、改革改善案が実行に移されたとの詳細な報告が学校よりありました。

- ・新コース制〔Ⅰコース（進学重視）、Ⅱコース（文武両道）、Ⅲコース（スポーツ科学）、中高一貫コース、の4コース制〕へ改変し、それぞれのコースで特色ある教育がなされたこと。
- ・新しいシラバスによる授業を実施したこと
- ・生徒の学力向上が図れる指導を実践したこと（キャリア教育を軸にした進路指導）
- ・クラブ活動の活性化が図れるよう側面からバックアップしたこと
- ・改革を実現していく教員の授業力向上のためのFD（Faculty Development）を実施したこと

等々の改革改善の実施状況に対して、本委員会としても理解し助言していくことを表明しました。委員会として、これからも学校改革がどのように進展していくのか注視し様々な提言をしていく所存です。

2 進路指導の充実（進路実績の向上）について

平成28年度においては、難関大学の総合格者数が増加したこと（平成28年度102名、平成27年度96）等の報告がありました。

難関私立大学の総合格者数は増加しているものの、昨年実現した東大・東北大等最難関国公立大学現役合格については平成28年度は達成できず、3年以上合格実績を継続していかないと進学校としてのステータスは確立しにくいことやクラス編成のあり方、3カ年を見通しての指導マニュアルの作成と実施などの必要性について助言をしました。これからも、一人ひとりの生徒が進路実現を図れるように、熱意を持って指導していただければと思います。

また「キャリア教育を軸にした進路指導」に関連して高校1年生を対象にした「CASプログラム」の実施とその成果についても説明がありました。生徒の進路意識の向上・進路選択力の育成のためにも、積極的に進めてください。

3 教員の授業力向上について

先生方は、生徒による「授業アンケート」や校内実施の研究授業・授業参観、外部研修会への年2回の必修参加、さらに平成27年度から実施のFDも継続して行い、様々な角度から自己研鑽に励み各自の授業力の向上に努めていると思います。結果として高校1年生・中学生を中心に模擬試験の結果も上昇傾向にあり、今後も、常勤のみならず非常勤の先生方も含めて一層授業力・指導力の向上に取り組むようにしてください。

4 クラブ活動の活性化について

クラブ活動については、学校の活力を内外に示していくためには、さらなる活性化が望まれます。近隣市町村の中学校の中には公立志向が高まっているところもあります。学校の名を高め安定的な生徒募集につなげるためにも文化部も含めたクラブ活動の強化に努めてください。そうした中で、特に28年度からのコース改変の中でⅢコース（スポーツ科学）が設定され、「強化クラブ」の強化・充実を図ることを改めて学校方針にしたと理解できます。そのための具体策として、選手（生徒）募集の仕方・施設面での充実についても検討があってもよいのではないかと思います。運動部にとどまらず、吹奏楽部・演劇部・応援団チア部など実績を向上させている部活動においても活動費の支援を含めてクラブ活動活性化のため、具体的な検討を要望いたします。

5 生活指導について

学校から、スマホ等によるSNS（ラインなど）の問題・交通マナー（特に自転車乗車マナー）の二点について、生活指導上の問題として報告がありました。

SNSに関連して、学校としては入学当初に「スマホ携帯安全教育」、担任による指導等を行っていることですが、さらに指導の充実が望まれます。

また、生徒の交通法令遵守・マナーの問題等に関しても、地域住民からの指摘・苦情もあるので、生徒への指導の徹底と保護者の理解が必要であると思います。学校としてさらに指導の充実を図ってください。

6 三高・三中の受験者・入学者の確保について

三高に関しては、新コース制2年目を迎えた中で学則定員400名に対して371名、三中は学則定員70名に対して56名の入学者で中高とも定員を満たせず、受験者数・入学者数とも厳しい状況があるとの報告がありました。あわせて、高校では説明会内容の見直し、イベントのネット予約制度の導入等、中学ではイブニング説明会の開催場所や開催時期の見直し等の対策案についても説明がありました。

入学手続き者数の減少について、より深刻に受けとめ、進学実績、クラブ活動の活性化、施設の改善、そして特色ある生徒の育成など、これまで以上に三高・三中とも学校の方針・特色・教育内容を積極的にアピールしていく必要があると思います。また三高・三中ともに入学者の量と質を確保するように学校として取り組んでください。

学校評価委員会としては、学校の教育活動の充実のため、今後とも積極的に学校に提言していきたいと考えております。